

獨協医学会

会 長 稲 葉 憲 之 (獨協医科大学学長)

運 営 委 員 会 委 員

石光 俊彦*	秋山 一文**	麻生 好正	石井 芳樹	内田 幸介
大類 方巳	黒須 明	桑島 成子	酒井 良彦	篠田 元扶
下田 貢	杉田 憲一	鈴木 純恵	高橋 都	千種 雄一
中元 隆明	西山 緑	籠持 淳	濱口 眞輔	春木 宏介
平林 秀樹	増田 道明	緑川由紀夫		

*委員長 **副委員長

Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

石光 俊彦*	籠持 淳**	麻生 好正	石井 芳樹	篠田 元扶
杉田 憲一	鈴木 純恵	千種 雄一	濱口 眞輔	平林 秀樹
増田 道明				

*委員長 **副委員長

編集事務員

鯉沼 行子

編 集 後 記

本年3月11日に起こりました東日本大震災、それに続く福島原発事故におきましては、獨協医学会の会員の方々の中にも被災され被害を受けた方がおられることと存じます。謹んでお見舞い申し上げますとともに、早期に復況、好展致しますことを心より祈念致します。幸い、獨協医科大学は若干の破損と停電などがありましたが大きな被害はなく、被災地の方々の医療支援も終息して、ほぼ通常の活動状況となり、獨協医学会雑誌(DJMS)も、この度、第38巻2号を会員の皆様にお届けできる運びとなりました。本号の内容は原着2編、症例報告4編に加え、2010年12月4日に行われた第38回獨協医学会の抄録が掲載されています。

近年、研究や論文作成のツールが進歩・発展した結果、投稿される論文の絶対数が増加し、impact factorのある雑誌に論文を掲載することが難しくなっています。以前は論文が集まらず積極的に論文投稿を促していた雑誌も、最近のaccept率は半分くらいになっているというようなことを耳にします。特に、症例報告は引用されることが少なくimpact factorを下げる要因となるため敬遠される傾向が進んでいるように思われます。しかし、研究論文の内容は、いくら優れたものであっても、その後の研究の展開により否定されたり

価値が失われることがあります。これに対し、症例報告については、呈示された症例が存在し、記載されたような病状を呈したことは疑いのない事実として恒久的に存続し、折があれば参照されることになり、その重要性が失われることはありません。このようなことから、impact factorとは関係なく、学内外で経験された貴重な症例の報告がDJMSに多く投稿、掲載されるようになることを期待します。具体的には、各診療科のCCやCPCで検討された症例は、使用されたプリントやPowerPointのファイルから、比較的勞せず症例報告の原稿を作成することができるかと存じます。

DJMS発行の基盤である獨協医学会の会計が近年赤字が続き毎年繰越金が減っている状況であることは以前にも書かせて頂きました。獨協医学会の予算の中ではDJMSの発行が大きな割合を占めています。これに対し、各講座の方々の入会促進、カラーの図の配置など印刷の効率化、広告掲載の促進など改善に努めてまいりましたが、お蔭様をもちまして平成22年度は大分赤字幅を減らすことができましたことを御報告致しますとともに、今後ともよろしくご協力を下さいますようお願い申し上げます。(石光俊彦)

2011年7月20日印刷

第38巻 第2号

2011年7月25日発行

編集発行人

獨協医学会

稲 葉 憲 之

発行所

獨協医学会

製 作

教 文 堂

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
獨協医科大学

Tel (0282) 86-1111 (内線2009)

〒162-0804 東京都新宿区中里町27

Tel (03) 3260-6136